



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R03/10
28号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2丁目 34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

がん治療と「あんしんカード」交付について



がんセンター長 日野 直樹

平成27年4月の「がんセンター」発足と同時に、当院では「あんしんカード」の発行を開始しました。このカードは、がんが比較的進行し急変する可能性のある状態で外来治療している患者さん、進行がんで連携医の先生に診てもらっている患者さん、免疫チェックポイント阻害剤を使用していて、今までの抗がん剤とは異なる全身性の副作用が出る可能性のある患者さんなどに発行しています。

カードを持った患者さんが受診されると、初期対応は主治医以外の医師が行うことはありますが、必要があればスムーズに入院治療でき、後に主治医へ引き継がれます。救急隊への周知も進んでおり、カードを持っていることを伝え、スムーズに当院へ搬送されるようになっています。

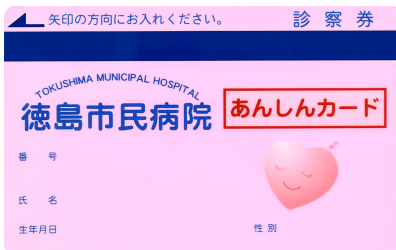
カードの「あんしん」には3つの意味があります。1つは患者さんに対する「あんしん」です。がんが進行し、今まで経験したことがない様な体調の不安を感じている

患者さんや介護するご家族に、市民病院はいつでも対応しますよという安心をあたえることです。もちろんカードがなくても可能な限り対応していますが、当院の救急外来は時にどうしても対応できないことがあります。そんな場合でもカードを持っている患者さんには、一定の制約はありますが、必ず対応することになっています。2つめの「あんしん」は、かかりつけ医や連携医の先生方に対する安心です。このカードを患者さんが持っていることで、何かあればいつでも当院が引き受ける事を知っていただいた上で、日常診療にあたっただけのものと考えています。3つめは、当院医師の「あんしん」です。時と場合により、主治医ではなく当直医が診ることはありますが、安心して主治医に引き継ぐことができます。

「あんしんカード」の総発行枚数は、2021年9月現在561枚、年間100名程度の患者さんに発行されており、約100名の方がご存命です。当院からの紹介で「あんしんカード」を持っている患者さんが来院された場合は、いつでも当院がバックアップできることを知っていただき、安心して治療に当たっていただければ幸いです。

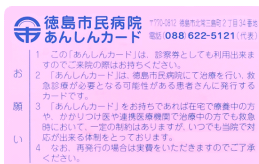
徳島市民病院「あんしんカード」とは？

- 市民病院でがん治療を行い、救急診療が必要となる可能性がある患者さんに発行しています
- お持ちであれば、在宅にて療養中の方やかかりつけ医・連携医療機関で治療中の方でも、一定の制約はありますが救急時はいつでも当院で対応します
- 診察券としても利用できます



▲ 表面

◀ 裏面



徳島医療コンソーシアム参加

8月18日、徳島医療コンソーシアム推進協議会がWeb開催されました。

これは、県内における複数の公立・公的病院が参加する包括的な連携体制「徳島医療コンソーシアム」の推進を目的とするもので、現在は以下の10団体（公立・公的13病院）が参加しています。

- ・徳島県立病院（中央病院・三好病院・海部病院）
- ・徳島大学病院
- ・地方独立行政法人徳島県鳴門病院
- ・三好市国民健康保険市立三野病院
- ・那賀町立上那賀病院
- ・美波町国民健康保険美波病院
- ・海陽町国民健康保険海南病院
- ・つるぎ町立半田病院
- ・徳島赤十字病院
- ・JA徳島厚生連病院
（吉野川医療センター・阿南医療センター）

今回の協議会において、当院と勝浦病院の参入が決定し、

内藤市長が協定書に署名しました。今後、医療従事者の交流やICTによる情報共有、5G回線を活用した遠隔医療などを通じて効果的な医療連携・協働の取り組みを進めていきます。

徳島県では、医師不足をはじめとした様々な問題に対応するため、人材育成や利用者ニーズの発掘、医療へのアクセスと在宅患者のQOL向上を可能とする遠隔医療の展開等、更なる地域医療の充実・質の向上を目指していきます。



画面上には関係者が一堂に会する

マイナンバーカードの保険証利用可能に

厚生労働省は、マイナンバーカードを健康保険証として利用するオンライン資格確認の仕組みを10月から本格運用させる予定です。当院においても、10月1日より外来受付及び救急受付に顔認証付きカードリーダーが設置されます。

来院時、マイナンバーカードをカードリーダーにかざし、顔認証を行うか暗証番号（4桁）を入力することで、健康保険証として使用することができます。マイナンバーカードの健康保険証利用には手続きが必要ですが、事前にマイナポータル（政府運営のオンラインサービス）から申し込むほか、当院窓口にて行うことも可能です。

このシステムの導入により、医療機関は保険証情報の入力や資格過誤によるレセプト返戻等の作業が削減されます。患者さんは待ち時間短縮のほか、将来的には限度額適用認定証等の書類を持参していない場合も、窓口で限度額以上の医療費を支払わなくてよくなるなど、双方に大きなメリットをもたらすことが期待されます。



カードリーダー使用例

（広報管理室 竹内 明子）

特定行為看護師へ…

兵庫医科大学の看護師特定行為研修を受講中の松井 幸恵さんが、eラーニングによる学習と集合演習を終え、9月13日より自施設実習を開始しました。

特定行為とは診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合は、実践的な理解力・思考力と高度かつ専門的な知識、技能の向上等が必要です。

当院では藪原 由紀子さんが3月に研修を修了し、術中麻酔管理や他部署での勉強会開催など、特定行為看護師としての活動を積極的に行っています。松井看護師は、10月まで当院にて実習を続ける予定です。

医療等連携協議会開催

8月17日、第10回徳島市民病院医療等連携協議会が行われました。当院と徳島大学医学部及び大学病院との間において、病院運営に付随して発生する共通の問題・課題について討議を行い、改善・改革に向けた取り組みを進めるための協議会です。

会場の市民病院には、徳島大学から香美 祥二院長、赤池 雅史医学部長ら4名、当院からは安井 夏生病院事業管理者、三宅 秀則院長ら12名が出席。新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を減じての開催となりました。

三宅院長は当院の経営指標や感染対策について報告を行った後、今回の大きな議題の一つである「医師の働き方改革」について言及。時間外労働に関しては上限規制に基づき年960時間以下を目指し、宿日直厳格化に対しては管理当直体制の変更を考えているが、増加する時間外勤務時間数や給与費の想定、管理当直中の救急患者(救急車)の対応等もあり、引き続き検討が必要としました。



香美院長はコロナ禍における大学病院経営、赤池医学部長は専門研修制度(シーリング)の問題点と対策、岩佐教授は産科医療の現状について説明。三者とも併せて医師の働き方改革に関する課題と改善の方向性を示し、池本特任教授は徳島大学の医療安全管理について詳細に報告しました。

議題発表後には質問が飛び交い、活発な意見交換が行われる場となりました。(広報管理室 竹内 明子)

感染対策研修会行われる

8月4日から6日まで、金丸感染管理認定看護師を講師とする研修会が行われました。新型コロナウイルス感染者数の増加が続く中、当院にも更に徹底した感染対策が求められたためです。

まず「標準予防策の不足が院内感染の原因になる」とし、遵守すべき基本的な感染対策として以下が示されました。

- 手指衛生の徹底
- サージカルマスク及び目の防護具(ゴーグル・フェイス



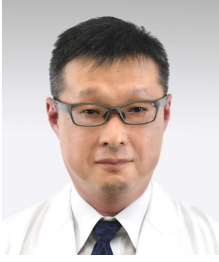
研修会初日の様子

- シールド)着用、体液曝露の可能性がある場合にはエプロン・ガウン・手袋を追加
- PPEの正しい着用と身体や衣服を汚染しない脱衣についての再確認

また、感染拡大防止強化のため、消毒に関する詳細な説明がありました。固定電話、パソコン、マウスやプリンターなどの共用物品とエレベーターのボタンやドアノブ、休憩室、シャワー室等の共用設備。多くのスタッフが使用する場合、これらを介した接触感染の恐れがあります。共用物品使用前後は必ず手指衛生を行い、時間・担当を決めて定期的な消毒を行うことが非常に重要とのことでした。

研修の結びには、飲食を伴う会合や帰省等の自粛が呼び掛けられました。新型コロナウイルスとの戦いは長期化が懸念され、身体的・精神的にも苦しい日々が続いていますが、気を緩めることはできません。当院はこれからも基本的な感染対策を徹底し、地域の中核病院としての役割を果たしてまいります。(広報管理室 竹内 明子)

新任医師紹介



放射線科 主任医長

岩本 誠司

画像診断に加え、IVR(画像下治療)を専門としています。地域医療に貢献できるよう、頑張っています。



消化器内科 専攻医

八木 麻衣

患者さんに寄り添った丁寧な診療を心がけます。どうぞよろしくお願いいたします。



初期臨床研修医

吉川 紘平

至らない点も多々あるかと思いますが、一人前の医師になるべく精一杯学びたいと思っております。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

シンボルサイン修繕

7月17日、当院入口のシンボルサインが修繕を完了し、くっきりと視認しやすい姿を取り戻しました。

「徳島市民病院」部分の箱文字とパネルは再塗装され、サインシートの表示内容や色味も更に見やすく変更。枝が伸びてパネルに掛かっていた植栽は剪定し、点灯用LEDランプも交換されました。明るく浮かび上がる文字は、夜間でも読み取りやすくなっています。



修繕前



修繕後

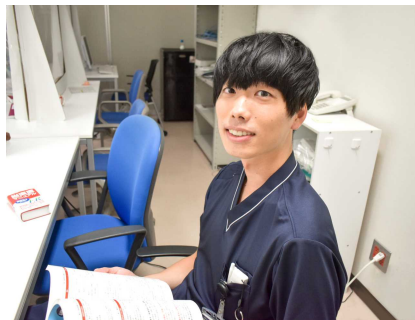
研修医日記

初期臨床研修医 岡本 将裕

研修医1年目の岡本 将裕です。高知県出身で、大学から徳島県に来ました。研修病院をどこにするか悩んでいましたが、徳島市民病院の掲げる「思いやり・信頼・安心」という病院理念に共感し、就職を希望しました。

仕事面では至らぬ点も多く、自己嫌悪に悩まされる日もありますが、試行錯誤しながら少しでも皆さんのお力になれるように日々精進して参りますので、暖かく見守っていただくと幸いです。

私事ですが、せっかく頂いたこの



機会に簡単にプロフィールを書かせていただこうと思います。

身長：190cm

誕生日：1996年2月3日

趣味：硬式テニス ゴルフ

休日の過ごし方：YouTube鑑賞
(左側臥位)

既往歴：虫垂炎(19歳)

生活歴：喫煙：(-)

飲酒：ウイスキー2杯/日

アレルギー：特記すべきことなし

人見知りな性格もあるため、スタッフの方々と距離を縮めるのにも時間がかかってしまうかと思うのですが、良い関係性を築いていきたいと思っておりますので、どうか気軽にお声をかけてください。

最後になりますが、私の尊敬するマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの言葉を紹介させていただきます。

「もし飛べないなら走ればよい。走れないなら歩けばよい。歩けないのであれば、這っていけばよい。何があっても、前に進み続けなければならぬのです。」

この言葉を胸に、日々の努力を惜しまず研修を続けていきたいと思っております。